

I 令和7年度 上富良野西小学校 学校経営方針

1 学校経営の基調

少子高齢化、社会全体のデジタル化・オンライン化、DX推進等、高度情報化社会の進展、感染症や自然災害の甚大化等々、先行き不透明な予測困難な時代を迎えています。教育に関しては、働き方改革も教師のなり手不足も、根本的な解決策は未だ見いだせず、いじめ、不登校は毎年のように歴代記録を更新し、通常学級における特別な支援を必要とする子供も増え続けています。私たちは、この変わりゆく時代に翻弄されることなく、子供たちの健やかな成長のために保護者、地域と協働し、今できる最善を尽くさなければなりません。

そのためには、土台となる足場（基礎的な学力、地域への誇りや愛着）をしっかりと固め、知識技能を活用し創造的に探究すること、互いの違いや良さを認め合い、他者と協働し共生すること、よりよい社会よりよい人生を求め、自ら学び続けることが大切です。

本校においては、全ての教育活動を通して教育目標の具現化を目指し、全教職員・保護者・地域・関係機関が連携・協働し、つながり・関わりの中で安心して学べる学校づくりの実現に努めることを経営の基調とします。

2 本校の教育目標

たくましく生きぬく子の育成

○進んで学ぶ子 ○思いやりのある子 ○がんばりぬく子 ○体をきたえる子

3 目指す子供像

進んで学ぶ子「知」

- 基礎的な知識・技能を確実に身につける子
- 課題解決に向け新しい考え方や方法を思考・判断・表現し、学び合う子
- 共に学び合い自主性や探究心をもって意欲的に学ぶ子

思いやりのある子「情」

- 互いの違いや良さを認め合える子
- 相手の気持ちを考え親切にできる子
- 自己有用感を持ち、互いに助け合い、高め合う子

がんばりぬく子「意」

- 自分の役割を自覚し、自分の目標を持つことができる子
- 目標に合った見通しを持ち、粘り強く取り組むことができる子
- 互いに励まし、困難や失敗を乗り越え最後まで努力する子

体をきたえる子「体」

- 運動と健康安全について理解し基本的な動きや技能を身に付ける子
- 運動や健康について自己の課題を見つけ解決に向け考え表現する子
- 運動に親しみ健康の保持増進と体力向上を目指す子

4 目指す学校像

- 共に学び合い、笑顔と感動があふれ、夢が膨らむ学校
- 子供たちの安全が守られ、安心して学ぶことのできる学校
- 学校・家庭・地域の協働で創る、地域と共にある学校

5 目指す教職員像

- 教職に強い情熱を持ち、子供に寄り添い温かく支援・指導できる教職員
- 自己研鑽に励み互いに学び合い、保護者・地域と協働できる教職員
- ワーク・ライフバランスを大切にし、心身ともに健康な教職員

6 経営の基本方針

つながり・関わりの中で安心して学べる学校づくり

○つながり・関わりの中で

- ・学級、縦割り班、他校、異校種、保護者、地域等のつながり・関わりの中での学び合いを通して社会性を育み、自己肯定感・自己有用感を高める。
- ・学校、保護者、地域がビジョンを共有し、パートナーとして連携協働し学びを展開する。
- ・地域の人・もの・ことの良さを活かした教育課程の維持・改善を図る。

○安心して学べる学校

- ・保護者・関係機関と連携協働し、一人一人の個性が尊重され、自己存在感や充実感を感じられる居場所づくりに努める。(不登校対応コーディネーターを継続配置)
- ・危機管理マニュアルの更新・共有を図り組織的な危機管理体制をつくる。
- ・保護者・地域と連携し児童の安全確保に努める。

7 本年度の重点目標

令和6年度の学校評価から、目指す子供像や「認め合い学び合う子供」の育成を図るために、児童が「できた」「わかった」という実感がもてる授業改善を継続していくことや、学習内容の更なる定着に向けた家庭学習の習慣化、基本的な生活習慣やルールを守るなど規範意識を高める指導の継続の必要性が明らかになりました。

一方、本校の児童に身に付けさせたい力について教職員にアンケートをとったところ、下記のような結果となりました。

- 自ら行動できる力 ○基礎学力（言語力） ○自分たちで課題に向き合い解決していく力
- 規範意識 ○相手意識 ○想像力 ○他人を思いやる力 ○コミュニケーション能力
- 一つのことを掘り下げていく姿勢 ○平等に人に接する態度 ○あいさつ・礼儀
- 人を敬う心 ○向上心・競争心 ○どう思うかどうしたいか声に出す力 ○反応する力など

以上のことから、令和7年度は全ての教育活動を通して、考える力の育成と、自分で判断し行動できる子供の育成を目指した学校経営を推進します。

豊かに考え、自ら行動できる子供の育成

「豊かに考える」とは

○多面的・多角的な思考力

子どもたちが物事を多方面から考え、単一的な答えにとどまらない柔軟な思考

○想像力や発想力

新しいアイデアや独自の考えをもてる力

○深い学び

表面的な知識の理解にとどまらず、深く物事を掘り下げ、つながりを考える力

○情緒的な豊かさ

- ・他者への共感や思いやりを含む、感情面での豊かさ
- ・美しいものや自然、他者の思いを受け止め、そこから深い考えを巡らせる力

○価値観や視点の多様性

- ・異なる考えや文化、背景を尊重し、広い視野で物事を捉えること
- ・自分の意見だけでなく、他者の考えも受け入れて総合的に判断する力

「自ら行動できる」とは

○主体性

- ・自分なりに考え、自らの意思で行動に移し、自ら結果に責任を持つ姿勢や能力
- ・指示を待つのではなく、自ら進んで行動する力

○問題解決能力

- ・課題や困難に直面したとき、自ら解決方法を考え、実践する力

○責任感や自律性

- ・自分の行動に責任を持ち、社会の中で他者と調和しながら生きるための自律的な力

ねらいと必要な情報を共有し、見通しをもたせることで主体性が育まれると考えます。

また、自ら行動したことを振り返り、次につなげることを通して、考える力が高まると考えます。

保護者・地域と連携協働し、子供たちが様々な人々とつながり、関わり合う中で、すべての教育活動を通して、自分の考えをもち、主体性を育む教育活動を展開し、西小ならではの教育の創造を目指します。

○学校評価に基づく数値目標

- ・児童は、自分の思いや考えを伝えたり、友達の考えから学ぶことができている→80%以上
- ・その他の項目→75%以上

8 経営の重点

(1) 学校経営

- ① 全ての教育活動で、重点目標を切り口とし、ねらいを子供・教職員・保護者の共通理解のもと、実践を進めていく。
- ② 職員の経営参画意識を高め、教育目標・重点目標の達成を目指して、組織的・計画的に日常実践や業務に取り組む。
- ③ 報連相の徹底により情報の共有化を図り、迅速に対応できる組織と分掌機能を確立する。
- ④ 学校の現状を的確に捉え、改善を図ることのできる学校評価を行う。

(2) 教育課程の編成・実施（カリキュラム・マネジメント）

- ① 基礎的な学習内容の定着と確かな学力の育成を図る指導計画の改善、充実を図る。
- ② 授業時数の確保、授業進捗の確認及び適正化を図る。
- ③ 身につけさせたい資質・能力を意識した教科等横断的な教育内容の充実を図る。
- ④ 地域に開かれ、地域の「人・もの・こと」を生かした教育活動を推進し、西小ならではの教育課程を創造する。

(3) 校務運営

- ① ゴールを共有し、各分掌の連携や担当の創意工夫を生かした教育活動を展開する。
- ② 分掌会議、特別委員会等を効果的に活用し、ゴールの確認や連携強化を図る。

(4) 学級経営

- ① 年度の重点目標の達成を目指した学年・学級経営案を作成し、定期的に評価・改善を行う。
- ② 学習習慣や生活習慣の定着と規範意識を育てるために、計画的・継続的に指導と評価を行う。
- ③ 計画的な相談活動等による児童理解に努め、望ましい人間関係や支持的風土を醸成する。

(5) 研修活動

- ① 研究主題に基づく研究授業と日々の授業実践を通して、教職員が研鑽し合い、指導力の向上を図る。（全学級の授業交流）
- ② 計画的な研究会への参加や外部人材の活用など、専門性や資質向上を目指し、主体的な研修への参加を促進する。
- ③ 信頼に応える教育公務員としての自覚の向上や服務規律の厳正な保持を図る。

(6) 教育環境

- ① 学級編成に応じた教室の効果的な配置と特別教室の整備を行う。
- ② 定期的に教材・教具等を点検し、計画的に整備していく。
- ③ ユニバーサルデザインを基調とした、子供が学びたくなる校内環境（教室、特別教室、廊下など）を整備する。
- ④ 季節に応じた校舎内外の整理整頓及び清掃美化を図る。

(7) 危機管理と安全教育

- ① 危機に対する未然防止策と、危機発生時の被害を最小限に抑える対応策、事後の危機管理対応（心のケア）を整備する。（マニュアルの共通理解と見直し）
- ② 情報の管理と共有化を行い、迅速に機能する危機管理体制の整備を図る。
- ③ 命の大切さを基本においた安全指導の充実を図り、安全な学校生活を送るため基本的な行動の習慣化と秩序ある生活態度を育てる。

(8) 開かれた学校づくり

- ① コミュニティ・スクール機能を拡充し、地域と共にある学校づくりを推進する。（学校地域連携コーディネーターを配置）
- ② 家庭や地域への積極的な情報発信と情報収集により相互理解を図り、協力体制を確立する。
- ③ 幼稚園・保育所、中学校との接続、東中小学校との連携を重視した取組を進める。
- ④ 持続可能なPTA活動、地域連携を推進する。

(9) 業務の効率化と時間外勤務の縮減

- ① 授業準備、教材研究等の時間を確保するため、業務の改善や会議の効率化を図る。
- ② 職員一人一人の意識改革を促進し、ワーク・ライフ・バランスの浸透・定着を図る。
- ③ 情報交流（報告・連絡・相談等）の日常化による情報の共有や指導方針の徹底等のため、ICTを積極的に活用した校務の情報化を推進し、子どもと向き合う時間の確保に努める。

9 指導の重点

(1) 学習指導

- ① 自ら課題を見つけ、見通しをもたせ、選択させる場を設定した授業を実践する。（主体的な学び）
- ② 効果的な個人思考・集団思考の手立ての充実や協働して探究する学習活動の充実を図った授業を実践する。（対話的な学び）
- ③ 学習内容の確認や問い返し、学習のまとめ、振り返りの充実を図った授業を実践する。（深い学び）
- ④ 個別最適な学びや協働的な学びのツールとしてのICTの効果的な活用を工夫する。
- ⑤ 特別支援教育の観点を取り入れた授業を進める。（授業のユニバーサルデザイン）
- ⑥ 朝学習の効果的な活用や家庭学習の習慣化等により、基礎基本の確実な定着に努める。
- ⑦ 地域の「人・もの・こと」の積極的な活用と体験的活動を重視する。
- ⑧ 問題解決的な学習や体験的な学習等を通して、思考力・判断力、表現力を育てる。
- ⑨ 読書活動の工夫と充実（読み聞かせの継続、家読や隙間の時間の活用、図書館司書との連携）

(2) 道徳教育

- ① 全教育活動と連結を図り、道徳的な実践力を高める指導を推進する。
- ② 「道徳の時間」を核とした道徳指導の充実を図るとともに、適切な評価を実施する。
- ③ 奉仕活動やボランティア活動を通して、個性の伸長を図り、豊かな心を育てる。

(3) 特別活動

- ① 取組のねらいを明確にし、自主的・実践的な態度を育てる。(一人一人がめあてをもち、振り返る場の設定)
- ② 児童の実態に即した題材や内容を設定し、児童相互の望ましい人間関係を築く。
- ③ 縦割り班活動、異学年集団での活動を通して、協力性や自己有用感を高める。

(4) 総合的な学習の時間・外国語活動

- ① 自ら課題を見つけ、自ら学び・考えるなど主体的な学習を促す指導の充実を図る。
- ② コミュニケーションに対する関心・意欲・態度の育成を図る。
- ③ 言語や文化に対する理解と異文化尊重の態度の育成を図る。

(5) 生徒指導

- ① 全ての児童を全ての教職員でという意識を大切にし、全職員の共通理解と役割を明確にした一貫した指導を推進する。
- ② 日常的なふれあいや教育相談等を通して児童理解に努め、いじめや不登校等の早期発見、早期対応に努める。(丁寧な児童理解と指導)
- ③ 家庭や地域、関係機関との連携を図り、人を思いやる心や社会性の育成を図る。
- ④ いじめや薬物乱用防止、情報モラル教育等の課題未然防止教育を系統的組織的に進める。
- ⑤ 不登校対応コーディネーターを配置し教育相談体制を整備する。学校、家庭、S Cや関係機関等と相談のネットワークを広げ、連携・協働する関わりをつくる。

(6) 体力・健康・安全指導

- ① 体力の向上を図るために、日常的に楽しみながら自ら鍛える体育活動を促進する。(マラソン・なわとび・集団遊び等)
- ② 新体カテストの計画的な実施及び分析結果の体育の学習への反映、「体力向上プラン」の作成
- ③ 基本的な安全行動様式の徹底とその習慣化を図る。
- ④ 健康に関する意識や態度を育てる指導の工夫及び充実を図る。
- ⑤ 正しい食生活の習慣化を図り、自ら健康増進の関心を高める給食指導の充実を図る。
- ⑥ 発達段階に応じた性教育の指導内容を明らかにし、指導の充実を図る。
- ⑦ 家庭、地域、関係機関との情報交流等、連携の強化を図る。

(7) キャリア教育

- ① 学年の発達段階に応じた年間指導計画、観点を明確にした評価計画を作成する。(キャリアパスポートを活用)
- ② 自分の特性を生かし、夢や希望をもって学習に取り組む態度を育む。
- ③ 勤労生産的活動やボランティア活動を通して、望ましい職業観の育成を図る。
- ④ スクールサポーターを講師に地域の良さや生き方を学ぶ。

(8) 特別支援教育

- ① インクルーシブ教育の理念を踏まえた特別支援教育の推進に努める。
- ② 特別支援教育推進計画の立案（含 関係機関との連携）
- ③ 個別の教育支援計画・指導計画の作成及び実施・評価・改善及び研修会を実施する。
- ④ 保護者との定期的共通理解の場を設定し教育的ニーズを共有する。
- ⑤ 児童理解・実態把握に基づく、連携・協働できる学校組織を確立する。